



食品安全モニター会議ってどんな会議?!

「新鮮でも食中毒は起こるということを伝えないといけないのでは」

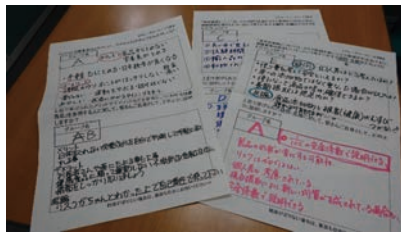
「『いわゆる健康食品』を多用する人には、その理由をじっくり聞くことも情報提供の際には必要ではないか」

…年代や職業、地域も様々な食品安全モニターの方々が、グループ（1 グループ 4～6 名）でテーマに沿った内容をまとめ、約 1 時間の中で発表まで行う、「食品安全モニター会議」の一場面です。

食品安全モニターは、食品安全に関する一定の知識や職務経験、資格などを持つ方々です。食品安全に関する提言、日常生活や各地域での食品安全に関する知識の普及などの活動をしていただくために、食品安全委員会が全国 470 名に依頼しています。モニター会議は、研修の目的で年 1 回実施、今年度は全国 9 か所で開催しました。

会議前半はリスクアナリシス講座の聴講、後半はグループディスカッション。話し合うテーマは、「食中毒」「食品添加物」「いわゆる健康食品」など会場により様々ですが、いずれもモニター自身が、食品安全に関する情報を周囲にどう伝えるかについて、グループ間でも情報交換しながら議論を進めるものです。各会場とも熱い議論が繰り広げられました。

食品安全モニターは、例年 12 月頃から、次年度の新規モニターを募集します。応募要件や応募方法などの詳細は、食品安全委員会ホームページや公式 Facebook 等で発表しますので、ご興味のある方はぜひ、ご覧ください。



▲グループ討議でテーマごとにまとめられた各グループのシート（一部）



▲グループ討議の様子（東京会場）



平成 27 年度 食品安全モニター会議

http://www.fsc.go.jp/monitor/moni_27/moni27_index.html

ジュニア食品安全委員会

小学校 5・6 年生 14 名が食品安全委員会委員と意見交換

スタートから 9 年目となる「ジュニア食品安全委員会」は、夏に各省庁で開催される「子ども霞が関見学デー参加プログラム」の一つで、食品安全委員会でも毎年の恒例行事となっています。今年度は 7 月 31 日に開催し、小学 5・6 年生 14 名とその保護者の方々が参加してくださいました。

前半は、「食品の安全はだれが守るの?」というテーマで、クイズを実施。佐藤食品安全委員会委員長の解説も盛り込みながら、6 問のクイズに挑戦してもらいました。

後半は、食品安全委員会委員との意見交換。事前に残留農薬について図書館等で調べ、説明用のフリップを準備し、発表してくれたジュニア食品安全委員会参加者（ジュニア委員）もいて、委員らもその内容に感心しきりでした。また、「食品の安全と安心のちがいは何ですか?」、「夏休みの自由研究でカビの実験をしています。1 週間たっても、白いごはんにカビが生えませんか。どのくらいでカビが生えるのですか?」、「食品安全委員会委員になるにはどうしたらいいですか?」など、たくさんの質問が出ました。事後アンケートには、「質問の時間をもっとたくさん取った方が良い」とのご意見もあり、今後の参考にしていきたいと思えます。

ジュニア委員の中から、「未来の食品安全委員会委員」が誕生することを期待します。参加者の皆さん、ありがとうございました。



▲ジュニア委員に説明する佐藤委員長



▲参加者全員と委員との記念撮影



(夏休み子ども企画) 平成 27 年度「ジュニア食品安全委員会」の結果について

http://www.fsc.go.jp/kids-box/junior-tokyo2708_s.html